

看 護

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 指導の改善に生かす評価について

教科「看護」の指導に当たっては、学校、生徒の実態に応じた指導方法や指導内容の工夫・改善を図り、個に応じた指導の充実を図ることが大切である。また、学習評価に当たっては、教科「看護」の各科目において実験や実習を重視していることから、ペーパーテストを中心としていわゆる平常点を加味した、成績付けのための評価ではなく、実験や実習における生徒の学習状況についても十分考慮して評価を行うことが重要である。

そのため、学習評価においては、各科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えることが必要である。

この観点別学習状況の評価は、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、日常の授業においても適切に実施されるべきものである。

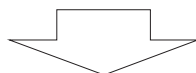
以下に学習指導要領を踏まえた科目「基礎看護」の特性に応じた評価の観点及びその趣旨と単元「(2) 日常生活と看護」の評価規準に盛り込むべき事項を示す。

<p>科目「基礎看護」の目標 看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を適切に行う能力と態度を育てる。</p> <p>科目「基礎看護」のねらい 看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ、日常生活の援助及び診療における看護に関する知識と技術を習得させるとともに、看護を適切に行うための基礎的な能力を養い、人間尊重の精神と職業倫理に根ざして、常によりよい看護を目指して自ら向上しようとする積極的な態度を育てる。</p>

学習指導要領を踏まえた科目「基礎看護」の特性に応じた評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割に関心をもち、よりよい看護を目指して主体的に取り組もうとするとともに、看護を適切に行う実践的な態度を身に付けている。	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について思考を深め、日常生活の援助及び診療において、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解し、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

各科目における評価の観点から、単元ごとの評価の観点を作成する。



単元「(2) 日常生活と看護」の評価規準に盛り込むべき事項

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
患者の状態に応じた日常生活の援助について関心をもち、患者の健康回復を目指して主体的に取り組もうとするとともに、看護を適切に行う実践的な態度を身に付けている。	患者の状態に応じた日常生活の援助について科学的に思考を深め、安全と安楽に配慮し、患者の自立を目指して適切に判断し、考えを表現している。	患者の状態に応じた日常生活の援助に関する基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。	日常生活が人の健康や成長・発達に大きく関わりをもつことを理解し、患者の状態に応じて、健康の回復に役立つ日常生活の援助に関する基礎的な知識を身に付けている。

(2) 指導と評価の一体化

学習の指導に当たっては、学習意欲を向上させ、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。バランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価において、各観点ごとの評価をバランスよく実施することが必要である。さらに、学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。各学校では、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図ることが重要である。

科目「基礎看護」の単元「(2) 日常生活と看護」の「ケ 病床環境の調整」を取り上げ学習指導と評価の改善・充実の事例を示す。

(3) 学習指導と評価の改善・充実 (例)

(事例) 科目「基礎看護」 単元名：(2) 日常生活と看護 ケ 病床環境の調整

ア 単元の指導計画

単元の指導計画を次のとおりに立てる。ここでは、第4次「病床環境の考え方」について事例として取り上げる。

項目	時間	授業形態 (評価方法)	評価の観点			
			関	思	技	知
【1】環境整備の条件	2	講義 (自己評価・小テスト)	○			
【2】ベットメイキングの意義・方法	6	講義・実習 (行動観察・ワークシート・自己評価・実技)				○
【3】リネンのたたみ方	4	講義・実習 (行動観察・ワークシート・自己評価・実技)			○	
【4】環境整備の考え方	10	講義・実習 (行動観察・ワークシート・自己評価・実技)		○		
計	22					

事例

※関：関心・意欲・態度、思：思考・判断・表現、技：技能、知：知識・理解

イ 単元の評価規準

「ケ 病床環境の調整」の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 人間の健康にとって望ましい環境条件と環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響に関心をもち、患者の状態に応じた病床環境の調整について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 患者を取り巻く人々と患者との人間関係とその調整に関心をもち、主体的に取り組もうとするともに、実践的な態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた病床環境の調整について科学的に思考を深め、適切に判断し、考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた望ましい病床環境に関する資料を収集し、その意味を読み取り、整理し、まとめている。 体験、実習を通して病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための基礎的な技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の健康にとって望ましい環境条件について理解している。 環境条件が患者の健康回復に及ぼす影響を理解している。 病床の作り方及び患者の状態に応じて病床環境を整えるための知識を身に付けている。 患者を取り巻く人々と患者との人間関係の調整について理解している。

ウ 評価方法

単元の指導計画ごとに学習活動に即した評価規準と評価の判断を行う具体例及び指導の手立てを設定する必要がある。ここでは参考として「第1次 環境整備の条件」から「第4次 病床環境の考え方」までの事例を一部抜粋する。このうち、本時（第4次 病床環境の考え方）における評価の観点は「思考・判断・表現」である。

観点	学習活動に即した評価規準	「十分に満足できる」状況（A）と判断した具体例	「努力を要する」(C)状況と判断した具体例
関心・意欲・態度	・安全で安楽が患者の健康回復に及ぼす影響に関心を持ち、安全安楽を配慮したベッドメイキングの方法について主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	・安全で安楽が患者の健康回復に及ぼす影響に関心を持ち、安楽でくずれにくいベッドメイキングの基本的な技術を十分に習得しようとしている。	・看護における安全安楽の重要性が十分理解できないため、根拠となる知識が身に付かない状態でベッドメイキングの手順のみ習得しようとしている。
思考・判断・表現	・病床環境の環境調整について病気や入院生活を基に思考を深め、適切に判断し、表現している。	・前時の人間の健康にとって望ましい環境条件と病床環境を基に、ワークシートや実践場面から不適切な環境条件とそれを予防するための方法や対策について他のメンバーと積極的に気づきや考えを補完し、自分の考えを適切に表現している。	・患者にとっての病床環境を環境調整する意義が理解できないため、患者の状態に応じた病床環境の調整が具体的に表現できない。
技能	・ベッドメイキングやリネンのたたみ方の基礎的な技術を身に付けている。	・前時の安楽でくずれないベッドメイキングの基本的な技術を整理し、手順に沿って意欲的に取り組んでいる。 ・リネンのたたみ方に関する知識や技術を適切に判断し、行動している。	・基本的な技術の根拠が理解できていないため、ベッドメイキングの手順に沿って行いが安楽でくずれないベッドメイキングができない。 ・リネンのたたみ方に関する知識と技術を関連させて適切なたたみ方ができない。
知識・理解	・病床環境における環境調整の影響や必要性を理解している。 ・病床を整えるための手順、方法や留意点についての知識を理解している。	・人間の健康にとって望ましい環境条件やその根拠をもとに、環境の重要性についてより深く理解している。 ・患者の状態に応じた安全、安楽で効率よい病床を整えるための手順、方法や留意点について理解している。	・日常生活と人の健康との関連が理解できていないため、具体的に望ましい環境条件や根拠がまとめられない。 ・病床を整えるための手順、方法や留意点について関連させて理解できていない。

エ 指導の手立て

「学習活動に即した評価規準」に照らして、「十分に満足できる」状況（A）と判断した生徒への発展的な学習に向けた指導及び「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立てについて、ワークシートを活用した参考例を示す。

科目名：基礎看護	単元名：病床環境の調整	ワークシート（例）
		クラス _____ 番号 _____ 氏名 _____
○実習前の整理		平成〇〇年〇〇月〇〇日
環境調整をするための視点を書きなさい。		
<ul style="list-style-type: none"> ・患者の生理的欲求が満たされ、からだの諸機能が正常に維持され促進されるようにすること。 ・心地よく快適であること。 ・安全であること。 ・毎日の生活に便利であること。 ・心理的・社会的欲求が満たされている。 		
○実習後の整理		平成〇〇年〇〇月〇〇日
環境調整の援助を実践し、わかったことを具体的に書きなさい。		
<ul style="list-style-type: none"> ・床に水がこぼれていたり、必要な物品が手の届かない場所にあると患者が転倒したり、ベッドから転落する。 ・ナースコールが手元がないので、緊急性を要する時や看護師を必要とする時に呼ぶことができない。 		
○まとめ		
実習を通して身に付けられたこと、考えたことなどを具体的に書きなさい。		
<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病床環境を整える意義が実践を通して学習内容と繋げることができた。 ・患者の安全と安楽を保障するには観察力が重要である。 ・患者は一日の大半をベッドで過ごすことを考えると、いかに心地よいベッドを作成しなければならないかが理解できた。 ・ベッドメイキングに時間がかかり、患者役に負担をかけた。また、2人で協働して作成するにもかかわらず連携がとれていなかった。 		

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた病床環境に興味を持つことができた。 病床環境の調整に主体的に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた適切な病床環境を根拠に基づいて考えることができた。 患者の状態を判断し、安全で安楽な病床環境の在り方と作成方法を具体的に発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に応じた病床環境に関する資料を集め、分かりやすく整理しまとめることができた。 患者の状態に応じた環境整備を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の健康にとって望ましい環境条件が理解できた。 病床の作り方の手順・方法・留意点が理解できた。
自己評価	悪い ←→ 良い 1・2・3・④・5	悪い ←→ 良い 1・②・3・4・5	悪い ←→ 良い 1・2・③・4・5	悪い ←→ 良い 1・2・③・4・5

生徒への指導の手立てや働きかけを行う必要があるポイント

ワークシートについては、生徒が評価の観点を踏まえて自己評価できるよう作成することが大切である。これにより生徒の学習状況を適切に捉え、それぞれの生徒の到達段階に配慮した指導の手立てや働きかけを行ったり、生徒の評価が「努力を要する」状況に至ることのないよう配慮することができる。

(ア) 「十分に満足できる」状況（A）と判断した生徒への指導

今後の病院実習における病床環境の調整に向けた具体的な取組や日常生活における環境調整についてのレポート作成など、発展的な学習を指導する。

(イ) 「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導

ワークシートの自己評価により、生徒への指導の手立てを行う必要があるのは、「病床の作成手順や方法の理解及び協力体制」であることがわかる。そのため、デモンストレーションの実施による手順の確認やペアで行う手順の援助計画用紙の作成を指導する。また、病院実習における病床場面を設定したグループワークを実施させ、様々な場面において適切な方法を自ら考える態度や能力の向上を図る。

(ウ) 授業計画の改善

確かな学力を身に付けさせるためには、観点別学習状況の評価を行い、その結果を授業改善や個に応じた指導の充実、指導計画等の改善につなげていくことが重要である。

改善前の「病床環境の調整」の実習における授業計画

- 1 板書・ワークシートを用いて次のことについて解説する。(配当時間：2時間) 【評価する観点：(知識・理解)】
 - (1) 環境調整の意義と看護者の役割
 - (2) 病室の条件と設備・病床とリネン類の条件
 - (3) 物理的環境条件
 - (4) 病床の作り方・環境の整え方
- 2 ワークシートにまとめた実習手順・方法・留意点をもとに、実習のポイントを指示・確認し実践させる。(配当時間：6時間) 【評価する観点：(知識・理解)(思考・判断・表現)(技能)】
 - (1) ベッドメイキングの手順・方法・留意点
 - (2) 環境整備の方法・留意点
 - (3) グループ毎に患者役、看護師役、観察者がそれぞれの役割の中で振り返り、グループ討議の実施
- 3 最後にまとめとして学習成果を全体発表させる。(配当時間：2時間) 【評価する観点：(思考・判断・表現)】
 - (1) 結果発表会

改善後の「病床環境の調整」の実習における授業計画

- 1 板書・ワークシートを用いて次のことについて解説する。(配当時間：2時間) 【評価する観点：(知識・理解)】
 - (1) 環境調整の意義と看護者の役割
 - (2) 病室の条件と設備・病床とリネン類の条件
 - (3) 物理的環境条件
 - (4) 病床の作り方・環境の整え方
- 2 板書・ワークシートを用いて以下の点を解説した後、ベッドメイキングと環境調整の見本を見せ確認させる。(配当時間：1時間) 【評価する観点：(知識・理解)(思考・判断・表現)(技能)】
 - (1) ベッドメイキングの手順・方法・留意点 デモンストレーションを実施し、知識・理解と技能を関連させて学習していくように工夫した。
 - (2) 環境整備の方法・留意点
- 3 板書・ワークシートで確認した後、以下の内容と方法でグループごとに実践させる。(配当時間：3時間) 【評価する観点：(知識・理解)(思考・判断・表現)(技能)】
 - (1) ベッドメイキング
 - (2) 環境調整
 - (3) グループ毎に患者役、看護師役、観察者がそれぞれの役割の中で振り返り、グループ討議の実施
- 4 臨床場面を設定した環境調整の実践(配当時間：2時間) 場面設定を行い、基礎的・基本的な知識・技能を発展させ、グループでの検討に対して改善を図った。 【評価する観点：(知識・理解)(思考・判断・表現)】
 - (1) 安全・安楽な視点から逸脱された病床環境を設定する。
 - (2) グループごとに患者役、看護師役、観察者など役割を設定し、場面を見て何をどのように病床環境を整えるのか、また、お互いにどのように連携し、実践するかを話し合わせる。
 - (3) 実践後、充足されていた点と不足な点をグループごとにまとめる。
- 5 最後にまとめとして学習成果を全体発表させる。(配当時間：2時間) 【評価する観点：(思考・判断・表現)】
 - (1) 結果発表会

2 「確かな学力を」育成する取組の改善・充実

(1) 全ての生徒に確かな学力を身に付けさせる

現在、高等学校には多様な特性をもった生徒が在籍しており、興味・関心や進路希望等が多様化する中、全ての生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、適切な目標を設定して日々の指導を工夫するとともに、生徒の実現状況を的確に把握して、さらにその後の指導に生かすことが必要である。

例えば、実現状況が十分ではない生徒には、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせることを重視しつつ、適宜生徒の興味を高める課題を提示して、身に付けた知識や技能を活用させる指導が考えられる。一方、実現状況が十分な生徒には、はじめに課題を提示してその課題を解決する過程において知識や技能を身に付けさせる指導が考えられる。このような生徒の実現状況に基づいた指導の工夫を行うには、生徒の実現状況を目標に照らして分析的に捉えることが大切であり、それには目標に準拠した学習評価による観点別学習状況の評価を行うことが必要である。

(2) 生徒の学習意欲を向上させる

これまでの評価は「評定をして終わり」の印象が強かったが、目標に準拠した学習評価により観点別学習状況の評価を行うことは生徒一人一人の実現状況を確実に把握することが前提であり、それゆえ生徒一人一人の進歩したところや他と比べて優れたところなどを把握することが重視される。

教科「看護」では、専門性を深めるために、校内実習や看護実践の場における実習の後には、その体験を振り返り、考察し記録にまとめ発表及び協議するなどの学習活動の充実が求められている。そのような発表の場面を通し、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにする。

(3) 学習指導要領のねらいに即した効果的な指導の実践事例

教科「看護」においては、国民の健康の保持増進に寄与する能力の育成を図る観点から、看護実践の場における体験を通して看護の本質とその社会的な意義を理解する学習活動や看護の基礎的・基本的な知識と技術を用いて臨床における課題解決を図る学習活動を充実することが重要である。科目「基礎看護」における単元「基礎看護臨地実習」の実践事例を以下に示す。

1 単元名 基礎看護臨地実習

2 単元の目標

- ・地域社会における医療施設等の機能と看護の役割を理解する。
- ・施設の生活環境、入居者の身体的・精神的・社会的側面を理解する。
- ・看護者として、高齢者との基本的な関わり方や日常生活への援助の方法を理解する。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
施設における高齢者の生活に関心を持ち看護者としての基本的な能力を積極的に身に付けようとしている。	看護の役割、高齢者の総合的な理解、看護者としての基本的な態度について考察を深め、適切に判断し、まとめて発表している。	施設における高齢者の生活を見たり、話を聞いたり、日常生活への援助を行い客観的に観察・実施したことを整理することができる。	老人施設の機能や看護の役割、施設における高齢者の生活、看護者としての基本的な態度について理解している。

4 単元の概要

本単元は生徒にとって初めての臨地実習であり、十分な学習成果を挙げるためには事前指導が重要である。事前指導で、高齢者や老人施設及び実習のイメージ化を図り、実習期間中及び実習後は観察及び体験したことの意味を既習の学習と関連付けて考えさせ、今後の学習につなげていく。

5 単元の指導計画 (全70時間)

第1次 (4) 実習オリエンテーション (目標、内容、記録、注意事項など)

第2次 (4) 講話 (実習施設から講師を招き、施設や利用者の概要説明)

講話終了後にグループワークの実施

・各自高齢者や施設入居者のイメージを、下記のワークシートに記入させる。

・ワークシートを活用し、意見交換を実施する。

第3次 (4) 高齢者体験 (高齢者体験グッズの着用、日常生活援助の演習：下記のワークシートを活用)

第4次 (56) 数カ所の施設に分かれて臨地実習を行う。

・講話やグループワーク、高齢者に関する既習の学習等を通して老人施設の機能、看護の役割、高齢者の生活、高齢者の全体像について考える。

・施設に入所している高齢者との会話を通じて、看護者に必要なコミュニケーション能力や態度について考える。

・高齢者に対する、日常生活への基本的援助技術を学ぶ。

・毎日、学んだことを発表し、意見交換し、記録する。

第5次 (2) 校内でグループごとに実習での学習成果を発表し、意見交換を行う。

既存の学習と比較検討できる情報を提供し、自己の課題を明確にできる場面を設ける。

実際に体験させ、イメージの具体化を図る。

指導者のアドバイスや激励により意欲向上を図る。

発表方法を工夫させ表現力を向上させる。

6 効果的な指導の工夫

○事前指導

①指導計画の第2次においてイメージ化を図る工夫を行い、高齢者に対する興味・関心を高めさせ、日常生活援助技術に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得を図る。

②老人施設や入居者及び高齢者に関した講話を実施し、ワークシートや意見交換から実習に向けた自己課題を考えさせる学習を展開し、思考力・判断力を向上させる取組を実践する。

○実習期間中

①毎日、その日の目標を挙げさせて実習を行わせ、主体的に学習に取り組む意欲の向上を図る。

②1日の実習終了時に互いの体験と考察や目標に対する反省をグループごとに発表し、意見交換をして理解を深めさせる。またその日の目標に対して、実習で体験した主な場面を再構成して振り返りさらに考察を深め、記録にまとめる。意見交換を実施し、生徒の学習意欲を高めるさせる。また、意見交換を行うことで、疑問点や反省点に対し今後どうしていくべきかなどの問題解決能力や自発的、創造的な学習態度の育成が望まれる。

○実習終了後

実習期間中に作成した実習記録を基にして、高齢者の理解や看護師の役割などの視点からグループごとに学習成果を発表し、クラス全体で意見交換を行い、表現力を向上させる。

ワークシート

問題1 80歳 Aさんの事例

右上下肢麻痺・自分で腰を上げることはできません。ベッドの上で、和式のパジャマを着て仰臥位で寝ています。おむつ交換をしてください。そして、リハビリに行くので、ズボンのパジャマか、運動着に着替えをしてください。

<Aさんをイメージして必要物品と援助方法を記入してください。>

問題2 92歳 Bさんの事例

麻痺はなし・支えがあれば短時間、立位を保持できます。リハビリが終わって居室に戻ってきました。車椅子にすわっているので、ベッドに移動し、和式のパジャマに着替えをしてベッドに仰臥位にしてください。

<Bさんをイメージして必要物品と援助方法を記入してください。>

車椅子の置く位置などは、図で記入してもかまいません。